

株式会社さくら都市総合研究所

清水 秀幸
主席 研究員17 都市の景観を
考える

日本国民は戦後の復興、高度経済成長の恩恵に、物質的な豊かさを享受した一方、社会システムのなかで、地位や名誉や財産、利便性の追求に固執するあまり、最も人として大切であろう心の豊かさを置き去りにし、無機質で殺伐とした社会を形成してきた節がある。それが、図らずも現在の都市空間にも現われている。

一見、満ち足りているように見える都市空間の中にも、どこかに満たされない想いや隙間風の吹く瞬間を見逃せないのが今の一般的な都市構造、と筆者は考えるのである。

人々の幸福のため、



空きが目立つテナントビル(長野市内)

暮らしを豊かにするためというあまりにも物質的目標だけに固執したこと、その手段として造形された都市という社会システムが、人が生きていくために必要な無駄という貴重な都市空間を削ぎ落とし、それによって、都市が本来持つべきやさしさや感動を置き去りにしてしまっているのである。

長野市においても、その例外ではない。人口増加によって拡散した都市構造は、さらなるインフラの増殖をまねき、増殖に増殖を重ねたまちは、気づいてみれば、市街地の空洞

化を誘発し、シャッター街を出現させた。

この現象は、決して同市に限ったことではなく、県内はもとより、全国の地方都市のいたる所で発生している現象である。(続く)

清水 秀幸氏(しみず・ひでゆき) 1952年長野市生まれ、76年明治大学政経学部政治学科卒。2013年6月株式会社守谷商会役員を退任し、同年7月株式会社さくら都市総合研究所を設立。長野市都市計画審議会専門委員ほか6委員、その他各地方自治体の審議員・部会員を兼任。現在同研究所社長